

ASSOCIAÇÃO CENTRAL NIPO-BRASILEIRA NOTÍCIAS E INFORMAÇÕES

ブラジル特報



あの町この町
ピラール・ド・スール Pilar do Sul

特集 ノルデスチ(北東部)経済 新潮流

- ・人材・物流・地理的条件 製造業や情報産業に生かす
- ・ノルデスチ(北東部)農業 モノカルチャー構造から多元化・多地域化へ

0円

新規会員募集中!
詳しくは P21 をご覧ください。



一般社団法人 日本ブラジル中央協会

URL <http://nipo-brasil.org/> E-mail info@nipo-brasil.org

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル本館 5 階 TEL:03-3504-3866 FAX:03-3597-8008 発行人: 大前孝雄/編集人: 岸和田仁

鉄とともに、人とともに。 私たちのSDGs

ふとまわりを見れば、社会は鉄でできたものにあふれています。様々なものづくりで暮らしを便利に快適にしたり、災害に備えインフラをより強く安全に変えたり、豊富な資源と高いリサイクル性で環境負荷を軽減したり…鉄はこれからも、人と地球の未来をささえる無くてはならない素材です。だからこそ、日本製鉄は鉄を進化させ続け、皆さまと力を合わせて持続可能な社会づくりに取り組んでいきたい。私たちのSDGsに、終わりはありません。

目次

あの町この町 ピラール・ド・スール【尾曾菜穂子】	3
ブラジル・ナウ【編集部】	5
【特集】ノルデスチ(北東部)経済 新潮流 人材・物流・地理的条件 製造業や情報産業に生かす【松野哲朗】	6
【特集】ノルデスチ(北東部)経済 新潮流 ノルデスチ(北東部)農業 モノカルチャー構造から多元化・多地域化へ 【岸和田仁】	8
新たな年、更新されたパートナーシップ 【オタヴィオ・エンヒッケ・コルデス】	10
日本で生まれて両親の母国ブラジルに対して思うこと 【知念友介】	11
ブラジル現地報告 ブラジルで製作されている エコロジーなジュエリーBioJoias【鈴木栄理子】	12
連載・日系企業シリーズ NSKブラジル57年のあゆみ(大波にもまれながらの航海) 【片岩 浩】	13
連載・ビジネス法務の肝 サッカー株式会社の創設【柏 健吾】	14
連載・勤どころ〜税務&ホットトピック〜 最新・内部監査潮流 【ラージ・フェルナンド/三上智大/天野義仁】	15
エッセイ リオから理桜へ【山瀬理桜】	16
ブラジルに暮らして パウリスターノ(サンパウロ市民) ずる賢い+アツアツのカルボナーラ?! 【野口くるみ】	17
ジャーナリストの旅路 日本は南米に学ぶ時【外山尚之】	17
連載・文化評論 人類学者ダルシー・リベイロ(1922-1997)生誕100周年 文人学者にして教育行政の革新者【岸和田仁】	18
最近のブラジル政治経済事情	19
キャンパス・コラム 地球の反対から、よりよい政治感覚を探る 2022年度ブラジル大統領選を受けて【村椿洋平】	19
新刊書紹介	20
連載・ブラジルあれこれ 『O Analista de Bagé』を読んでみた(2)	20
協会からのお知らせ	22



写真=永武ひかる
「表紙のひとこと」

「ブージョス！」リオ下町の雑踏に、騒音を突いて呼び声がした。澄んだ張りのある響き。主の女性は北東部バイーア風の装い。アフリカルーツの宗教で使われる、貝殻占いをするという。身一つの露天商は清々しく、明るいパワーを放っていた

永武ひかる：ブラジル撮影約30年、著作に写真絵本『世界のともだち3 ブラジル』（偕成社）等。
www.hikarunphoto.com

ピラール・ド・スール Pilar do Sul

Pilar do Sul (ピラール・ド・スール)。それは私にとって、愛おしくて落ち着く響き。ここにもう8ヶ月住んでいる。あるのは広くてなだらかな傾斜と、大きな大きな空である。時々、サンパウロのような都会が恋しくなってしまうが、ピラールに帰ってくるとなんとも言えない安心感に包まれる。都会で緊張していた心と身体がほぐれてホッと一息できる場所だ。

ピラールは、サンパウロから車で3時間、人口3万人の町である。農業を生業とする人が多く、小さなセントロと大きく広がるシッチオ(農地)がある。セントロがあまりにコンパクトなので小規模な町だと思われがちだが、その奥に広がるシッチオに町の人口のほとんどが集中しているという。ここは作物の育ちにくい土壌で、元々人の住み着かない場所であったが、「家を建てる人には無料で土地を配る」という政策が打たれて以来、たくさんの人が移動してきた。今となっては穀物や果物の生産で有名な町である。

ピラールの好きなところは「人」である。カイピーラ(田舎者)の人々は、よそ者である私にも分け隔てなく接してくれる。私が「ポルトガル語があまり分からないので、少しゆっくり話してください。」と言うと、「あなたはここの人じゃないの?」と聞かれる。「あなた、外国人?」などと、ストレートな表現はあまり使わない。そう聞かれると、「うん、日本から来たの。4月に来たの。」と、こちらから自由な余地が残されているような気がする。

この町に来てから、たくさんのいい出会いがあった。だが多くの人々がもうこの町を去ってしまった。日本に出稼ぎに行ったり、大学や仕事のために都会へと引っ越したりと、この長閑な田舎町で激しく人が出入りしている。ここには食べ物も、安全もある。反面、都市部と比べると仕事は限られ、サラリーマンの年収ではつましい生活だ。だから若者は町の外に可能性を見つけにいくのだ。でも最近、この町ピラールでなんとか!という思いを持って頑張っている人を見つけた。辛い状況にある時、そこから逃げることも大切だ。しかしそれと同じくらい、(無理はしない程度に)どうにか頑張ってみる粘り強さも大切だと気がついた。そんな人からたくさん話を聞いて、私もいざという時に踏ん張れるよう、レジリエンスを高めたいと思うようになった。

尾曾菜穂子(ブラジル日本交流協会研修生)



SAUDADE DO BRASIL

43年間南米一筋!ブラジル専門の旅行会社(株)アルファインテル

ブラジルへの ご旅行・出張 は 創業 1979 年の アルファインテル に お任せください。

新型コロナウイルスの世界的な流行により、海外旅行に行くのは難しい状況が続いています。

海外旅行に対する考え方も変わり、より安心・安全が求められるようになりました。

コロナ禍でも、アルファインテルは南米系旅行会社で唯一のIATA(国際航空運送協会)公認代理店として、主に在留ブラジル人の皆様にブラジル行きの航空券を手配し続けている実績があります。

ご出発前に必要なPCR検査・陰性証明書の様式やワクチンパスポートなど、各国の要件も最新情報にてご案内し、より安心・安全な旅をご提供します。

主要取扱航空会社: ルフトハンザドイツ航空、カタール航空、エミレーツ航空、エールフランス航空、KLMオランダ航空、ラタム航空、アメリカン航空、ユナイテッド航空、デルタ航空、トルコ航空、イベリア航空、ゴル航空他

航空券のほか、現地のホテル、車両、ガイドの手配も実績ある弊社にご用命ください。

お客様のお声

2007年よりアルファインテルさんとブラジル音楽好きに特化したブラジルツアーを開催しています。なかでも2010年度のジョアン・ジルベルト&ルイス・ゴンザガの故郷訪問ツアーは思い出深いです。案内してくれた現地ブラジル人ガイドさんも「こんな所に来たの初めて!」と写真を撮りまくるほどでした(笑)。入手困難なイヴェッチ・サンガロのコンサートチケットを人数分確保していただいたことにも感謝しています。コロナが収束したらまた再開しましょう!引き続きよろしくお願いします!



Willie Whopper氏
(Barzinho Aparecidaオーナー)

ブラジルへ帰国する際は必ず利用させていただいています。乗り継ぎ便に間に合わないトラブルなど、いざという時にブラジル現地でも相談できるので、安心してブラジルへ行けます。また、ブラジル観光地のことを知り尽くしたスタッフが旅行プランを提案してくださるので、はじめての方でも失敗しない最高のブラジル旅行を楽しむことができます。



平野勇パウロ氏
(株アルファインテル
代表取締役)

僕が海外を旅するようになったのは25年くらい前。月日が経ち今は毎年のようにブラジルに行く生活になりました。治安状況の変化や新型コロナのような感染症が流行ったりしたとき、旅のアマチュアである僕らには知りようがない正確な現地情報や、危険を避けるノウハウが旅行会社にはあって、航空券をそこで買うということは、旅が終わって日本の土地を踏むまで見守ってもらっている、という安心感があることに気がつきました。旅の目的や希望実現のためのプランも一緒に考えてくれます。安心して旅の準備で実は一番大切なポイントですし、アルファインテルさんの細やかな対応や気遣いが本当に助かります。



宮澤摩周氏
(パーカッションスト・
Quer Swingar Vem Pra Cá代表)



観光庁長官登録旅行業 第1835号

東京都港区西新橋 1-20-10 西新橋エクセルビル 7 階

株式会社アルファインテル

電話: 03-5473-0541

e-mail: info@alfainter.co.jp



Accredited
Agent

photo by Junko Sekine



BRASIL NOW

ブラジル・ナウ

◆貧困・所得格差の拡大という現実◆

12月3日付けのジョルナル・ド・ブラジル紙(電子版)のトップ記事は、「IBGE(地理統計院):2021年ブラジルの貧困層は65百万人」というタイトルで、コロナ・パンデミックがもたらした貧困と所得格差の悪化が政府の公式統計数字によって確認されたという内容であった。主なポイントをメモしておこう。

世界銀行の分類に従えば、一日当りの所得が5.5ドル(約760円)以下が「貧困層」で、同所得が1.9ドル(約260円)以下は「極貧層」となっているが、2021年度のブラジル全人口に占める「貧困層」の割合は29.4%(人数としては62.5百万人)、地域別ではノルデスチ(北東部)は人口の48.7%、ノルチ(北部)は44.9%となっており、「極貧層」は全人口の8.4%(17.9百万人)となる。

コロナ・パンデミック発生以前と比較すると、貧困層は22.7%も増加、極貧層にいたっては48.2%も増えた。さらに、人種別にみると、黒人(皮膚の色が黒色・褐色)のうち37.7%が貧困層であるのに比し、白人では貧困層は18.6%にすぎない。

さらに、所得格差を示すGINI係数(0に近いほど所得格差が小さく、1に近づくほど所得格差が大きい)もIBGE(地理統計院)が同係数を発表するようになった2012年以降では2021年の数値は最悪となっている。2012年から2015年までは年々数値が改善されていたが、2016年から2018年にかけて悪化、2019年からまた改善したが、2021年にまた悪化、という経緯だ。具体的な数値では、2018年=0.545であったが2021年=0.544となっており、この係数も地域差が大きい。北東部が0.556であるのに比し、南部は0.462(一番格差の小さいサンタカタリーナ州は0.424)となっており、北東部は貧困層も多く、所得格差もひどいことが再確認されたことになる。

こうしたIBGE統計数値から読み取れることは、コロナ・パンデミックなどの複合要因がもたらしたマイナスインパクトの結果、ブラジルの貧困層が絶対的にも相対的にも増加し、特にノルデスチ(北東部)とノルチ(北部)の経済的貧困状況が悪化し、所得格差も一層拡大してしまった、という厳しい社会経済情勢の現実である。

◆大統領選挙(決選投票)の結果◆

10月30日(日)のブラジル大統領選挙・決選投票の結果、PT(労働者党)のルーラ候補(元大統領)が勝利したが、有効投票数の獲得率(確定数字)は、ルーラ 50.9% ボルソナーロ 49.1%であり、その差は僅か1.8%であった。

過去の大統領選挙結果を復習しておく、前回(2014年)は、ルセフ(PT)51.64% ネーヴェス(PSDB)48.36%とその差は3%であったが、前回(2018年)は、ボルソナーロ(PSL)55.13% アダッジ(PT)44.87%

と11%もの差があった。これらの数字をみても、今回は僅差での辛勝といわざるをえない。

また、今回の10月2日の一次投票では、ルーラ48.43% ボルソナーロ43.2%と5.2%の差があったが、決選投票でどうなったかということ、ルーラの獲得票数は300万増に対し、ボルソナーロは700万票増となったため、両者間の差は1.8%に縮んだことになる。このボルソナーロ「善戦」数値は、まさにブラジル政治・社会の二極化を象徴している、というのが多くの識者の見解であった。

さらに政治研究者の関心を呼んだ事例として在日ブラジル人の投票結果がある。日本における決選投票の結果は、ボルソナーロ得票率が東京80.33%、浜松85.39%、名古屋85.72%であった。70万人近い全世界の在外ブラジル人有権者全体では、ルーラ得票率が51.28%であったから、在外ブラジル人のなかで在日ブラジル人のボルソナーロ支持率の高さが際立っている。

◆第三期ルーラ政権が対面する課題◆

10月31日付けエスタド・デ・サンパウロ紙(電子版)の社説の書き出しは、「ルーラの勝利は、ブラジルという国にとっては問題の解決を全く意味しない」という厳しいコメントであったが、例えば国会運営の大変さ。

国会(下院)の構成をみても、ルーラ支持連立政党(10政党)の合計獲得議席は144に過ぎず、全議席数(513議席)の三分の一にも達していない。複数の中道派・右派政党とのアライアンスを組まねば、議会運営もできないことは明白だ。

11月9日付け総合週刊誌VEJAは、ルーラ政権が対面しなければならない12の課題を特集記事にまとめている。その課題タイトルのみ列記すると、

- ①貧困の削減
 - ②ブラジルの平和的融和
 - ③多元的政府
 - ④秘密予算
 - ⑤経済成長
 - ⑥財政均衡
 - ⑦市場の不信感
 - ⑧諸改革
 - ⑨三権分立維持
 - ⑩国際的イメージ
 - ⑪腐敗・汚職
 - ⑫ガバナビリティー(統治能力)、
- となっている。

◆ボルソナーロ三男によるトランプ詣で◆

ワシントンポスト紙の報道によると、エドゥアルド・ボルソナーロ下院議員は、決選投票の後、トランプのフロリダにおける邸宅「マールアラゴ」を訪問したが、トランプ前米大統領とステイブ・バノン、ボルソナーロー家に対し、不正選挙を主張して、選挙の無効を訴えるための異議申立を行うよう、促した。バノンは、取材に対し、「(異議申立は)恐らく、上手く行かないであろうが、それをするにより、支持者達を鼓舞することはできる」と述べた。これは「内政干渉」といわざるをえない。

『ブラジル特報』編集部

人材・物流・地理的条件 製造業や情報産業に生かす

『ブラジル特報』編集部

2023年1月からのブラジル・ルーラ政権復活の立役者は、地域的にみるとノルデスチ(北東部)である。所得が低い人口の多さから、左派の支持基盤として知られる。しかし、植民地時代以来のサトウキビ農園を基盤にした産業構造のイメージが長く染みつき、発展が遅れていた経済に転換の兆しが表れている。本稿では、ペルナンブーコ州を軸として製造業と情報産業に着目する。

南東部の比重低下の裏返し

まず、現在のノルデスチ経済を概観する。人口はおよそ5800万人と国全体の27%を占める(2021年推計)が、域内のGDP(国内総生産)の占有率は14%にすぎない(2019年時点)。一人当たりのGDPは国内5地域で最も低い(表1)。北東部を構成する9州をみると、歴史の中心地だったバイーア州は人口1500万人と域内の26%を占め、GDPも域内の28%と最も大きく、これに人口970万人のペルナンブーコ州(人口・GDPの域内シェア各17%、19%)、人口920万人のセアラ州(同16%、16%)が続く(図1)。

これに対して、一人当たりのGDPはペルナンブーコ州が2019年時点で2

表1.ブラジル5地域の人口、GDP、一人当たりGDP

	人口(万人)	GDP(億レアル)	一人当たりGDP(レアル)
北東部	5,767	10,478	18,359
北部	1,891	4,204	22,811
南東部	8,963	39,175	44,330
南部	3,040	12,721	42,437
中西部	1,671	7,314	44,876
ブラジル計	21,332	73,891	35,162



表2. GDPに占める5地域の比率(%)

	2002	2005	2010	2015	2019
北東部	13.1	13.0	13.5	14.2	14.2
北部	4.7	4.9	5.3	5.3	5.7
南東部	57.4	57.5	56.1	54.0	53.0
南部	16.2	15.9	16.0	16.8	17.2
中西部	8.6	8.6	9.1	9.7	9.9
リオデジャネイロ州	12.4	12.4	11.6	11.0	10.6
サンパウロ州	34.9	34.2	33.3	32.4	31.8
ペルナンブーコ州	2.4	2.3	2.5	2.6	2.7
セアラ州	1.9	1.9	2.0	2.2	2.2

表3. ブラジルの製造業に占める5地域の比率(粗付加価値ベース、%)

	2002	2005	2010	2015	2019
北東部	9.0	8.7	9.0	10.7	10.8
ペルナンブーコ州	1.6	1.4	1.7	2.3	2.8
南東部	60.8	61.9	60.2	55.5	54.6
南部	21.5	20.6	21.1	23.4	24.4
中西部	4.0	4.1	5.1	5.8	5.8
北部	4.7	4.7	4.7	4.6	4.4

出所: いずれもIBGE

万レアルを超えており、域内9州トップである。全27州・連邦区では17位と低位だが、国内最下位のマラニャン州の1.5倍である。

次に、ノルデスチ経済が全国に占める位置づけの変化をみる。一期目のルーラ政権が成立する前年の2002年から、新型コロナ感染拡大により経済が落ち込む前年の2019年までの推移を取り上げる(表2)。GDPに占める地域別シェアの変化で顕著なのは、サンパウロ州を中心とする南東部の低下である。南東部は国全体の半分以上を占めるが、その比率は17年間で4.4%ポイント下がっている。一方、他の4地域はすべて上昇しており、北東部は1.1%ポイントのプラスである。

北東部9州では、2位ペルナンブーコ州と3位セアラ州が首位バイーア州を追い上げている。ペルナンブーコ、セアラ両州は全国のGDPに占める比率を17年間で0.3%ポイントずつ上げ、マラニャン、ピアウイ両州が0.2%ポイントずつ上げる一方、バイーア州は4.0%前後とほぼ横ばいで推移している。

産業別にみると、北東部は全国の製造業に占める比重(粗付加価値ベース)を17年間で9.0%から10.8%に高めている(表3)。特に、製造業が近年安定的に伸びているのがペルナンブーコ州であり、同比率は1.6%から2.8%に上がった。これに対して、北東部の北側に位置する

セアラ、マラニャン、リオグランデ・ド・ノルチの各州は、製造業がほぼ横ばいで推移する一方、電力・ガスを含む産業が大きく伸びている。再生可能エネルギーの風力発電が急拡大している地域である。

自動車・部品の生産拠点に

ペルナンブーコ州の製造業躍進を象徴するのが、世界有数の自動車メーカー、ステランティスの生産基地である。フィアット・クライスラー・オートモービルズ(FCA)がフランスのグループPSAと経営統合してステランティスになる前の2015年、FCAがジープ生産のため州北部ゴイアナで稼働させた。ゴイアナはバライーバ州と接する海岸沿いの自治体で、工場は州都レシーフェから直線距離で50キロ、国道101号沿いにある。

ゴイアナ工場はすでにブラジルの重要な乗用車生産拠点になっている。地域のエコノミストたちで構成するCEPLANの報告書(2022)によると、2015~2021年累計でゴイアナ工場は国内生産台数の7.3%に相当する105万台を製造した。工場稼働後の拡大により、国内生産台数に占める同工場のシェアは2015年の2.4%から2021年には13.2%に高まった。

ペルナンブーコ州は自動車の輸出拠点としても存在感を増している。ゴイアナ工場での2015~2021年の生産台数の15%(15万6000台)が輸出され、同期間のブラジルの輸出総台数の5.7%を占め、2021年だけを見ると10%に達している(CEPLAN報告書)。州の輸出額は順調に伸び、2021年に2014年の倍以上の21億ドルに増えた。自動車の寄与が大きい。

ステランティスの進出に伴い、ペルナンブーコ州には関連企業が集積し、クラスターを形成している。同州に置くサプライヤーは34社あり、うち22社はゴイアナの生産基地に集まっている。ステランティス関連のフォーマル雇用は2015年以降年平均5.6%増え、2022

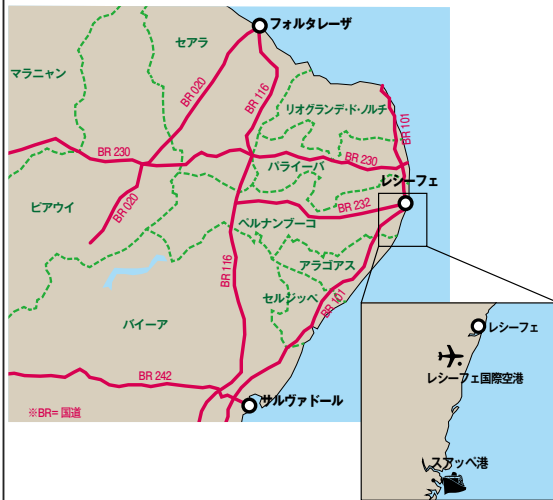
年には1万5000人に達した。レシーフェ都市圏で同社は地元のサプライチェーンを発展させるため、中小企業を対象にした指導プログラムを実施している。

元々、ペルナンブーコ州には自動車部品産業が存在し、クラスター発展の技術的な基盤があった。その代表格がバッテリーメーカーのモウラ。レシーフェの西方170キロ、国道232号が通るペロ・ジャルジンに生産拠点がある。年750万個以上のバッテリーを生産し、車やオートバイなどに供給している。車載電池の世界最大手である中国CATLと組んで電気トラック向けのリチウム電池の生産事業に乗り出している。

陸・海・空の物流に強み

国道101号沿い、レシーフェに近いイガラスにあるムサシ・ド・ブラジル。前身の工場は1970年代に設立され、武蔵精密工業が1997年に資本参加してから四半世紀が経過する老舗部品メーカーである。製品の設計は親本社、生産プロセスの設計はブラジル現法という役割分担の下、二輪や四輪向けにギアなどを製造している。エルトン・バジジオ社長は「港湾、空港、高速道路のインフラが整っていて、物や人を動かしやすい」とペルナンブーコ州の優位性の一つを指摘する。関係が深いホンダに納入するマナウス向けの二輪部品は主に船で、ミナスジェライス州など他の四輪メーカー向けの部品はトラックで運んでいる。

ノルデスチ経済の成長につれ、ペルナンブーコ州の地理的な好条件が輝きを増している。佐野浩明在レシーフェ総領事は「北東部全体を一つの市場としてみると、サルヴァドール、フォルタレーザ、レシーフェの三大都市にアクセスの良い地点が物流拠点として有利」と指摘する。



レシーフェの南方40キロに位置するスアッペ港は「陸送の観点からアクセスが良く、800キロ圏内に北東部のGDPの90%を抱えている」。同港は急成長を遂げ、2020年には2014年比で貨物取扱量が68%増え、国内4位になった。内訳は輸入20%、輸出15%、国内沿岸輸送65%である。港湾だけではなく、レシーフェ空港は北東部の州間移動に加え、サンパウロやリオデジャネイロなどへの乗り継ぎに便利な地域のハブ空港として機能している。

日清味の素アリメントス(現在はブラジル日清食品)が2012年にペルナンブーコ工場を設けたのは、従来の南東部の工場からの輸送では北東部での価格競争力に問題があったからである。ペルナンブーコ工場は国道232号に近く、ノルデスチ各地に即席めんを運びやすい。

自動車にもましてスアッペ港に寄与しているのは石油である。スアッペ港の工業団地にはペトロブラスが国内で34年ぶりに新設した最新鋭の製油所があり、2014年から稼働している。生産したディーゼル燃料などは主に北東部・北部に供給される。同港の取扱量の4分の3は原油などの液状貨物である。

ICTなど人材にも優位性

ペルナンブーコ州の製造業に対しては新味に欠けるとの見方もある。自動車産業の集積は1950~70年代にサンパウロ州で起きた現象の再現ともいえるし、ペトロブラスにとって石油精製は旧来業務であり、製油所の大半は1950~70年代に計画・建設されている。

これに対して、次世代産業の核といえるのはペルナンブーコ州の産学官連携事業「ポルト・デジタル」である。情報通信技術(ICT)産業の育成を狙ってインフラを整備し、ゲームやアニメを含むソフトウェア開発や関連サービス提供に従事する企業や研究機関の誘致に2000年から取り組んでいる。現在、レシーフェの歴史地区を中心に350社が集積し、1万5000人の人材が集う。スタートアップや個人で働く技術者も多い。

外資系を含む企業の多くは、人材の確保を狙って進出している。2022年にポルト・デジタルへの参画を決め、数百人の技術者を採用しているNTTデータ現法によると、「サンパウロでの人材調達は逼迫し、人件費が上がっている」(ファ

ビオ・カステルッチCFO)。同社は南東部以外ではレシーフェとフロリアノポリス(サンタカタリーナ州州都)の2都市に注目し、人件費を抑えながら優秀な技術者を得ようとしている。いずれの都市も連邦大学出身の人材が豊富である。

これまでICT技術者はサンパウロ圏に集中していた。「金融の中心地であり、高給が金融システム関連の技術者を引きつけてきた」(サンパウロ大のアフォンソ・フレウリー教授)。あるブラジル人男性は居住環境がよいフロリアノポリスにあこがれ、サンパウロから引っ越して情報技術で修士号を得たが、当地には希望する職がなく、再びサンパウロに戻らざるを得なかったという。

しかし、ネット環境が整備されれば、仕事場は必ずしも地理的に制約されなくなる。サンパウロ州や世界各国から依頼されるデータ処理やソフト開発といった仕事はどこでもできる。NTTデータのレシーフェ事務所で働くアントニオさんは「海外で働く機会もあったが、医師の妻が勤務するレシーフェを離れられない」と話す。朝、妻の出勤を見送った後、自宅でリモート勤務して、次から次へと開かれる会議に参加する。40人程度で構成される彼のチームには、対面で会ったことのない同僚や海外勤務者もいるという。

自動車業界も技術職の人材を重視している。2021年にバイーア州の工場を閉鎖してブラジルでの生産を止めた米フォードは、同州の開発拠点を残して採用を増やしている。ステランティスはペルナンブーコ州で多くのインターンを受け入れている。ムサシではエンジニアの転職が少なく、技術職幹部は20年以上の勤務が目立つ。

製造業でも次世代に向けた萌芽がみられる。水素生産である。欧州に近いセアラ州には風力や太陽光といった豊かな再生可能エネルギーを利用するグリーン水素事業が欧州企業などの支援で動き始めている。スアッペ港の工業団地でも欧州系や中国系の企業が水素生産基地づくりに関心を示している。

ノルデスチは、物流・情報インフラの整備によって労働力や消費者市場、地理的資源を開拓しやすくなっている。現時点では一部の地域に限定されているが、未来への基盤づくりは着々と進んでいる。

(文責: 松野哲朗 中央大・神奈川大非常勤講師)

ノルデスチ(北東部)農業 モノカルチャー構造から 多元化・多地域化へ

岸和田仁 (『ブラジル特報』編集人)

経済コメンタリストの 名コラムを再読する

「Industria da seca (旱魃便乗ビジネス) は、マウリシオ・デ・ナッサウ (註: 17 世紀のオランダ支配時の統治者) の時代から暗躍していた。この旱魃商売は、明らかな政治屋の利益分配やカモフラージュされた経済的利得と秘かに繋がっているのだ。旱魃の時や戦争の時の人災を悪用するのは古典的な悪徳ロジックだ。様々な解決策によって諸問題を解決できるのだが、解決してしまうよりも問題を問題のままであり続けたほうが利益になるのだ。(中略)

既に生産地となっている灌漑農地は、1ha あたり年間 1 万ドル程度の収益をもたらしており、ブドウの場合は二期作 (年に二回の収穫) が実現している。当該農地における年間日照時間は、3,050 時間となっており、世界で最も代表的な灌漑農業産地となっているカリフォルニアが 2,190 時間であることを想えば、太陽光パワーに恵まれている。(中略)

熱帯果実の灌漑農業用に開拓された面積は、ノルデスチ内陸部乾燥地帯の灌漑可能面積全体の 1% 程度でしかない。(中略) 何世紀も前から続いているノルデスチ問題とは、雨の不足が原因で起きているではなく、いうまでもなく水の不足でも全くない。不足しているのは、対策の実行力である。」

これは 1980 年代から 2000 年代にかけてブラジルのメディア (新聞 & TV) において八面六臂の活躍をしていた経済コラムニスト、ジョエルミール・ベチン

グ (1936-2012) の新聞 (エスタド・デ・サンパウロ紙に加え、エスタド通信社経由全国各紙に配信) の特設コラムの主要部分を引用したものだ。1998 年 5 月 9 日付けのコラムのタイトルは「二つのノルデスチ」で、ノルデスチのセッカ (旱魃) 問題とは、天災である以上に人災であることをわかりやすく解説したうえで、その乾燥地帯における灌漑農業の成功事例について、エスプリと巧みなレトリックを駆使して記述している。このコラムが書かれてから 24 年もの時が流れたが、今日読み返しても彼の指摘は説得力を有している。

サンフランシスコ河中流域 における灌漑農業について

このコラムで指摘されたノルデスチにおける灌漑農業の代表例である、ペトロリーナ (ペルナンブーコ州) とジュアゼイロ (バイーア州) というサンフランシスコ河中流域に位置する双子都市を中心とする大規模灌漑農業開発をざっくりと復習しておこう。

サンフランシスコ河流域の開発を目的として 1948 年設置されたのが、CVSF (サンフランシスコ河流域開発委員会) であったが、これが 1967 年 SUVALE (サンフランシスコ河流域開発庁) へ改組され、さらに 1974 年に CODEVASF (サンフランシスコ河流域開発公社) となつて、灌漑農業プロジェクトを推進・具体化するようになる。1968 年に設立されたベペドウロ・プロジェクト (総面積 7,797ha、灌漑可能面積 2,418ha) を嚆矢とするが、サンフランシスコ河

中流域における灌漑農業が本格化するのは、1978 年に、ラテンアメリカ最大の人造湖ソブラディーニョ・ダム (満水時の湖面面積は日本の瀬戸内海とほぼ同じ) が竣工し、さらに、最

大規模のニエロコエリョ・プロジェクトが 1984 年に開始されてから、といったよい。

1991 年の段階で、全てのプロジェクトを合算すると、灌漑可能面積 43,000ha となっていたが、同地域における二大主要作物マンゴとブドウの収穫量推移をみると、1991 年 8 千トンだったマンゴは、2013 年には 45 万トン、2017 年には 54 万トン (ブラジル全体のマンゴ



◀ノルデスチ内陸部 (ペトロリーナ地区) の植生 (有刺灌木とサボテン類)

収穫量の 5 割強) へ、同じく、1991 年 3 万 2 千トンだったブドウ生産量は 2013 年には 25 万トン、2017 年には 27 万トンへ、と、急成長してきた。また糖度の差別化により欧米市場での評価も高いことから、ブドウもマンゴもブラジル輸出量全体の 9 割以上が同地域から出荷されている。また、農産加工分野での定着事例をいくつかあげれば、ワイナリーが 7 か所稼働中であり、灌漑サトウキビ栽培と砂糖・エタノール加工が一体化したコンビナート工場は 1982 年操業を開始している。さらには、アセロラ果汁加工工場やパブリカ製粉工場などのアグロインダストリーも多数稼働している。

また、ブドウの強制剪定、塩害防止暗渠排水道、マンゴの開花時期調整ノウハウなどの農業技術は現地にて試行錯誤の上開発されたものだが、こうした乾燥熱帯地の諸条件に適応した農業技術の開発を実際担ったのは、1980 年代以降南部から移入した日系農家の人たち (日系文



▲赤枠内が MATOPIBA

化協会 ACENIBRA の設立は 1984 年、現在の日系農家数は 150 家族以上) であった。

大農型プランテーション栽培と自作小農が共存する農業構造となったサンフランシスコ河中流域における灌漑農業フロンティアは、様々な問題を抱えつつも、多くの自作農を創出したことで農民層の分解を “民主的に防止” できた農業開発成功事例として評価してよい、と筆者は考えている。

柑橘類 (ライム) の 栽培が急拡大中

10 月 2 日 (日) 放映された農業番組 Globo Rural によれば、サンフランシスコ河中流域 (ペトロリーナ地区) におけるライム (Limão taiti) 栽培が急拡大中である。現在の植付面積は約 350ha で、収穫量は、2021 年度の 5 千トンに比し、2022 年度の見込み収量は 1 万トンとなっており、現在、月間 400~500 トンのペースで欧州 (オランダ) 向けにコンスタントに輸出されている。ライム専用の空調付きパッキングハウスでは 50 名以上の正規従業員が雇用されており、同地区の新たな農産品になりつつある、という明るいニュースであった。

400 年以上続くサトウキビ

『砂糖の社会史』(邦訳版、原書房、2017 年) という実に面白い砂糖を巡る歴史物語を書き上げた米国の歴史家マーク・アロンソンは、同書において「砂糖がなければ、ブラジルもなかった」と記したが、ブラジルの研究者からはお二人の発言をメモしておこう。「ブラジルには砂糖という天からの恵みがある」と記したのは、経済史研究の泰斗カイオ・ブラード・ジュニオール (『現代ブラジルの形成』1942 年) であったが、「砂糖抜きでは、ノルデスチの人たちを理解することは出来ない」と述べたのは社会人類学者ジルベルト・フレイレ (『砂糖』1939 年) であった。

そのサトウキビ生産の中心地だったのが、ノルデスチとりわけペルナンブーコであったが、原生林に覆われたマサッペンと呼ばれる肥沃な土壌に恵まれたノルデスチ沿岸地域で 16 世紀後半に開始されたサトウキビ栽培は急拡大し、17 世紀には世界最大の砂糖生産国となつて

いる。1629 年の段階でブラジル全土に 346 のエンジェーニョ (農場 & 製糖工場) があったが、150 がペルナンブーコで、二番手のバイーアは 80 であった。オランダによるノルデスチ支配 (1630-1654) を経て、ポルトガルによるノルデスチ再奪還、オランダ敗退 (1654 年) に伴い、逃げ出した多くのユダヤ系農場主がカリブ諸島に移住し、製糖ノウハウを移転したことから、17 世紀後半には、砂糖生産中心地はカリブ諸島に移ってしまう。とはいえ、ノルデスチにおける黒人奴隷労働力に依存したサトウキビ生産は継続され、20 世紀になってウジーナと呼ばれる近代的製糖工場になつてもサトウキビのモノカルチャー構造は変わらなかった。

こうして 400 年以上に亘ってブラジル最大の砂糖生産地のポジションを維持し続けたペルナンブーコだったが、肥沃な土地も連作で長年に亘って痛め続けられれば地力は低下するのは必定であり、サンパウロを主体とする南部、中西部でのサトウキビ栽培が本格化するにつれ、相対的に地盤沈下を始めることになる。

まずは、1970 年代、だ。第一次オイルショックを契機として、サトウキビからのアルコール (エタノール) を自動車燃料として実用化しようとの「プロ・アルコール計画」が 1975 年に策定されたが、1980 年代に入るとブラジルにおけるエタノール車の工業的生産が本格化する。これと並行してサンパウロにおけるサトウキビ栽培面積が急拡大し、ブラジル最大の生産地になっていく。1980 年の州別順位は、①サンパウロ②アラゴアス③ペルナンブーコとなっていた。

1980 年代から 40 年以上が経緯した現在 (2021 年度) の州別サトウキビ生産量 (単位: 百万トン) ランキングをみると、①サンパウロ: 298、②ゴイアス: 70、③ミナス: 64、④マトグロッソ・スール: 41、⑤パラナ: 32、⑥アラゴアス: 18、⑦マトグロッソ: 15、⑧ペルナンブーコ: 13、となっている。かつてのサトウキビ生産チャンピオン、ペルナンブーコ州は 8 番目まで後退している。アラゴアス州と合算してもマトグロッソ・ド・スールに及ばないのが現状だ。ブラジル全体が、578.8 百万トンなので、サンパウロ州だけで全体の 50% 以上を占めているのに比し、ノルデスチはセアラ州やバイーア州なども合算したノルデスチ全体で 50 百万トン程

度であり、全体の 8.6% でしかない。これがかつて世界最大のサトウキビ栽培地であったノルデスチの現状である。

念のため、ペルナンブーコ州のここ 40 年ほどの生産量 (百万トン単位) 推移をざっとみておくと、1974 年: 13.3、2008 年: 19.7、2012 年: 17.4、2013 年: 13.1、2021 年: 12.8、となっており、製糖 (& エタノール) 工場の数では、1974 年: 38、2008 年: 22、2012 年: 20、2013 年: 16、というように 40 年前の半分以下になっている。残念ながら、ノルデスチのサトウキビ産業が低迷から再成長へ軌道修正される可能性は極めて低いといわざるを得ない。

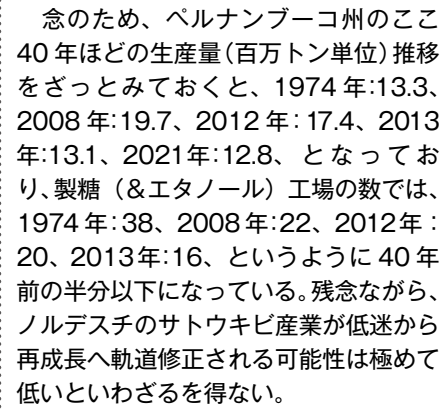
ノルデスチのセラード地帯 MATOPIBA での穀物生産

マトビバとは、MA = マラニャン、TO = トカンチンス、PI = ピアウイ、BA = バイーアの合成語であるが、このノルデスチにおける北セラード地帯が新しい穀物生産フロンティアとして急成長中である。主な農産品は大豆、コーヒ、トウモロコシ、綿花であるが、大豆を例にとると、既に同地域の生産量は 8 百万トンを超える規模にまでなっている。1980 年代から開発が始まったが、新穀倉地帯と呼べるほどになったのは 21 世紀に入ってからである。その地理的条件から農産品の積出ロジスティック問題がまだ解決されていないが、今後の「約束された農業フロンティア」であることはまちがいない。

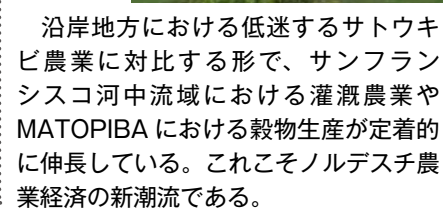
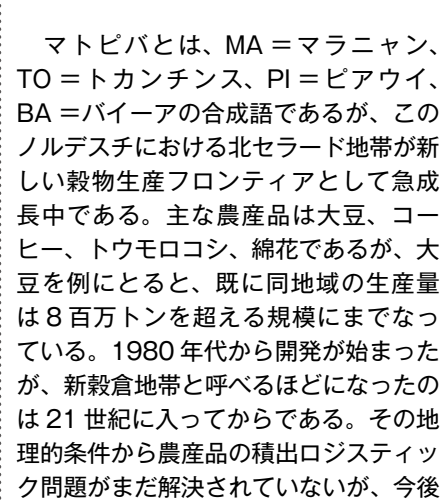
沿岸地方における低迷するサトウキビ農業に対比する形で、サンフランシスコ河中流域における灌漑農業や MATOPIBA における穀物生産が定着的に伸長している。これこそノルデスチ農業経済の新潮流である。



灌漑ブドウ畑 (生食用) ~ 平棚式 ▶



◀ノルデスチ内陸部 (ペトロリーナ地区) の植生 (有刺灌木とサボテン類)



伝統的サトウキビ農園のセ
ンザーラ (奴隷小屋) 跡 ▶



新たな年、更新された パートナーシップ

オタヴィオ・エンヒケ・コルテス（駐日ブラジル大使）

Foto: Bruna Luise



日本ブラジル中央協会の会員の皆様にご挨拶できることを嬉しく思います。まず、新年のご挨拶を申し上げるとともに、2023 年が貴協会と会員の皆様にとって、より大きな成功と成果が得られる年となるよう、心からお祈り申し上げます。

1 年の始まりは、前の年に達成したことを振り返り、新しく始まる 1 年の目標を設定する時期です。

2022 年、私は駐日ブラジル大使に任命されるという喜びと名誉を得ました。10 年以上前のこととなりますが、2008 年から 2011 年までの間赴任していた、私が尊敬するこの国に戻って来ることが出来た喜び。特別な関係にあり、歴史あるパートナーシップを築いている国でブラジルの代表を務める名誉。

昨年（2022 年）の中頃、東京に到着して以来、私は多忙な日々を過ごしてきました。

経済面では、第 25 回日本ブラジル経済合同委員会を開催し、両国のビジネスリーダーが集う賢人会議を推進し、その提言はすでに岸田文雄首相に届けられています。官民が一体となって、貿易と投資の流れを拡大するための提案について協議しています。私たちの望みは、多くの雇用が生み出されるようビジネスをさらに拡大し、両国の成長に寄与することです。

また、科学技術やイノベーションの分野でも、ブラジルと日本の距離を縮めることを目指しています。国家科学技術開発審議会(CNPQ)からの使節団の受け入れ、第 2 回 Brazilian Diaspora

in Science and Innovation（在外ブラジル人研究者会議）、第 2 回 Brazil Games Week の運営、日本政府との二国間協力、および第三国との協議を行いました。

9 月には第 8 回、日本ブラジル領事当局間協議が開かれました。在日ブラジル人コミュニティとブラジルの日系子孫の主な関心事項である教育、短期滞在ビザ、日系四世の現状などのトピックについて意見交換が行われました。これらの協議は、両国の多くの人々の日常生活に実際に影響するものです。

文化の面では、2022 年は祝い事が多い年でした。独立 200 周年を記念して、日本ヴィラ＝ロボス協会によるコンサートを開催しました。「ブラジルの味」プロジェクトでは、パンタナールのガストロノミーの一部を日本に紹介することができました。また、石巻の Reborn-Art Festival に参加したグラフィティ・アーティストの OSGEMEOS や、渋谷の象徴でもあるスクランブル交差点付近でのハンナ・ルカテリによるアート介入など、ブラジルのストリートアートも存在を示しました。さらに、ポルトガル大使館と共同で行った音楽や映画のイベント開催や、ブラジル文学 5 作品の日本語訳（註：既刊は G・ハーモス『乾いた人びと』、O・ナカザト『ニホンジン』、L・ファグンジス『三人の女たち』、続刊は I・ヴィエイラ『まがった鋤』、『ブラジル文学傑作短篇集』、いずれも水声社）を刊行するなど盛りだくさんの 1 年でした。

2023 年に向けての私たちの課題は、

今のペースを維持し、最大の目的である、日本とブラジルの関係をより強くさせるための新しい道筋を作ることです。ブラジルで新政権が誕生しても、日本との関係は優先事項になることは間違いないでしょう。

日本とブラジルは特別な関係にあります。私たちは、民主主義の価値観と人権の尊重で結ばれています。互いに相当の貿易・投資を行っており、世界有数の経済大国として、具体的な共通利益によって結ばれています。しかし、何よりも、長い歴史による深い絆で結ばれているのです。ブラジルは世界最大の日系人社会を誇り、日本には海外最大規模のブラジル人コミュニティが存在します。

私たちは今までも、そしてこれからも、日本とともにあります。今年は、ブラジルと日本が国連安全保障理事会の選出メンバーとして出席します。平和のための対話を強化する良い機会です。2023 年には日本が G7 の議長国を、2024 年にはブラジルが G20 の議長国を務めることを考えると、他の戦略的課題でも互いに協力しなければなりません。私たちは、政治対話、貿易と投資の流れを促し、エネルギーにおけるパートナーシップ、発展途上国のための協力を促したいと考えています。

協力できる分野は多く、仕事への強い意欲もあります。この責務を全うするために、日本ブラジル中央協会と会員の皆様のご支援をお願い申し上げます。ともに、このパートナーシップを更新しましょう。

日本で生まれて 両親の母国ブラジルに対して 思うこと



知念友介
(76 期司法修習生)

はじめに

この度『ブラジル特報』に寄稿させていただく機会を頂戴し、感謝を申し上げます。私は大学院生の時に貴誌を拝読しており、このような機会を頂き光栄に思う。

さて本稿では、ブラジル人を両親に持ち日本で生まれ育った私が司法試験に合格するまでの経験、ブラジルに対する思いなどを自由闊達に述べたい。私としても初めての執筆で、至らない部分があるうかと思われるが、どうかご容赦願いたい。

経歴

1997 年、富山県にて出生。出稼ぎ労働者のブラジル人の両親を持ち、高校生までは富山県内の公立の学校に通った。その後、2016 年に静岡大学に入学、2020 年に早稲田大学大学院のロースクールに入学し、一貫して法律を勉強した。同大学院の卒業後は民間企業に入社した。同社で働きながら勉強も継続させ、2022 年の 9 月に司法試験に合格した。同年 11 月から約 1 年間、司法修習生として法律実務に関する汎用的な知識や技法の習得に取り組む予定である。

弁護士を目指した理由

私が弁護士を志した理由は、二つの出来事が関係する。一つ目は、中学校で見た弁護士が主人公のテレビドラマである。訴訟で一度も負けたことがない敏腕弁護士が話術巧みに裁判で相手方を圧倒し、最後は依頼者の問題を解決するというものである。このとき弁護士という職業を初めて知った。私生活を謳歌するも、仕事は正確にし、最後には依頼者から感謝される。こんな弁護士像を率直に格好よいと思い興味をもった。二つ目は、両親

の通訳をしていたことである。例えば、携帯を購入する時や市役所で届け出をする時は私が両親の通訳をしていた。その時、私の能力的限界から内容の多くを説明できず、実質的には確認もなしに書面に署名することが多くあった。幸い私が後にトラブルになった経験はないが、外国人の中でも内容を知らずに署名した書面が原因で法的トラブルになる危険性があるのではないかと中学生ながら考えた。そこで私が弁護士になればこのような人たちに助力できると思い、弁護士を志した。

司法試験で苦労したこと

司法試験に合格するまでに苦労したことは、コロナ感染症が大流行し緊急事態宣言が発せられる東京でのロースクール（以下、「LS」とする。）生活だと考える。法曹を目指す多くの学生は LS で司法試験の勉強をする。私も例に漏れず LS に進学したのだが、問題はコロナ感染症の流行と異郷の地に進学したことである。つまり、当時静岡に住んでいた私は東京の LS に進学したことで知り合いが誰もいない状況だったことに加えて、緊急事態宣言の影響で LS の授業が初めてオンライン方式になったのである。LS の大半の期間を自宅で一人で勉強することになった。通常なら LS 生は友人同士でゼミなどを組んで授業の予習や期末テスト対策をすることが多いが、私の場合は独りで基本書や判例を調べて予習をしており、司法試験対策に時間を割くことが難しかった。

しかし、2 年目以降は LS の授業が対面式も追加され学友もできたので、徐々に LS の授業の予習にも慣れてきていた。また、司法試験対策については、ほぼ毎朝過去問を解くことで経験値を上げることに注力できた。1 年間で過去問の答えを 150 通起案した。それが功を奏

し、無事司法試験に合格することができた。新しい環境に慣れることに苦労したが、大量に過去問を起案したことが、司法試験に合格できた鍵だと思う。

ブラジルをより探る

自己理解を一段と深く進めるために、今後はできる限りブラジル人に関係する団体、行事や事件を支援する活動をしていきたい。

私の周りに家族以外のブラジル人が少なく基本的には日本人として生きていた。幼少期には容姿が他の子と違うことを陰口され自分の人格について思い悩んだこともあった。また、日本に生まれ育つことで自然とブラジル人としての感覚は希薄される。しかし、やはり日本で暮らしていると、自分の中のブラジルらしさを認識することも何度もあった。不思議だが、外国にいと自分の日本人らしさを感じ取るが、日本にいとその逆の現象が起きる。日本でもサッカーの W 杯観戦は欠かせないし、フェイジョン、コシーニャやシュラスコを友人に誇りをもって薦められる。しかし、その度自分の無知さも自覚する。こうして日本で生活すればするほど、両親の母国であるブラジルを理解しようとの意識的欲求は増すのである。ブラジルらしさという自分の大事なアイデンティティを自覚するために、今後はブラジルとの関わりを増やしたい。

おわりに

最後に、私は弁護士というキャリアの始まりとしては、国際案件も扱える企業法務の分野に取り組みたいと考える。それと並行して、上述した如くブラジルへの思いを深めるためにもブラジル人の個人事件にも積極的に取り組んでいく所存である。

ブラジルで製作されている エコロジーなジュエリー BioJoias



鈴木栄理子
(ラボア代表)

バイオジョイアスとは

BioJoias とは、直訳するとバイオジュエリー。バイオのジュエリーという名の通り自然界に生息している植物を用いてブラジルで製作されているジュエリーの事である。素材を収穫して乾燥させた後に葉や枝、種子を使用して手仕事でネックレス、指輪、ピアス、ブレスレットなどを製作する。

最終的に 18 金を施して仕上げていく為、一見ボタンカナル型の彫金のようにも見えるが、よくみると葉脈の細かさが人工製作では難しいほど繊細で細やかな表情を持っている。種子の棘などもそのまま生かして製作しており、植物本来の姿や立体美も楽しむことができる。自然そのままのフォルムや葉脈の表情を生かしたデザインが特徴のナチュラルなジュエリーとなっている。しかも軽い為、長時間の着用にも適したジュエリーである。

BioJoias は世界的にサステナブルファッションの重要性が高まってきたことを踏まえて、2008 年にサステナブルなジュエリーを手掛けたいという思いからブラジルで誕生した。現代社会と自然とを結び付けたいという思いも重なり BioJoias 製作に向けての取り組みが始められた。そして自然の植物の葉や種子などを特別な技術を用いて銅で補強した後最終的にブラジル産 18 金を付着させて仕上げる強度を有したナチュラルなジュエリーを誕生させた。

バイオジョイアスの素材

BioJoias に使用する植物素材はアマゾン、セラード、カーチンガ、パンタナル、大西洋岸森林などのブラジルを代表する生態系の中から採取されてきている。その採取にあたっては各生態系における生育のサイクルに悪影響を与えない様に専門機関とパートナーシップを結び取り組んでいる。よって素材の採取は、決められた時期に専門の担当者の手で適量のみ採っている。例えば、ブラジルで最も重要な生態系の 1 つであるセラードでの採取は、ブラジリア大学監修の元で年に 1 度のみ行われる。その葉の採取は指定されたリーフピッカーの家族の手でなされる。写真はそのセラードで採取される葉とその葉から製作されたジュエリーである。

BioJoias に使用する素材はブラジル生態系で採取する植物以外にも、製作しているアトリエでガーデンを作りバラの葉や菊科の花など多様な植物を栽培して素材として用いている。ジュエリーとして BioJoias の製品の幅も広げている。

もともと植物の葉に 18 金を施すジュエリーはアメリカやヨーロッパでも製作がなされて

いた。

ブラジルの BioJoias とそれらとの大きな違いは、サステナブルファッションアイテムを作り現代社会と自然をつなげる事を目的として製作されている点である。ブラジルを代表する大きな生態系に生息する植物を手元に届ける責任を理解してその種の保存に尽力もする。又、使用する植物のユニークさは他国では類を見ないものがある。

製作は全工程手仕事でなされるが、全労働者の労働時間・適正な賃金・休暇取得など人権にも配慮している。そして生産工程で使用する水を処理するステーションを設けており、環境を汚染せずに排水を再利用している。BioJoias は SDGs なジュエリーとして生み出されている。

BioJoias という名称は、アクリルなどの人工物で作られるイミテーションジュエリーや、金・シルバー・宝石などのファインジュエリーとの差別化を分かり易くするために、バイオジュエリーと名付けられた。BioJoias の特徴はエコフレンドリーな自然素材を使用しているという点以外にも、着用する人にも優しいことが挙げられる。まずは植物素材の為、軽量で長時間の着用にも向いている。そしてアレルギーを起こす主要要素といわれるニッケルやカドミウムを含まない。また自然の葉や種は 1 点ずつ他に類がなくそのユニークさを楽しめる上、自然の造形美に触れる事もできる。

BioJoias は現在、ブラジル国内の販売のみならず世界 20 か国以上に輸出されており、各国でバイオジュエリーやエコジュエリーと呼ばれて親しまれている。

植物素材アクセサリ

ちなみにブラジルでは各地域に自生した植物を素材に用いて製作されたアクセサリも BioJoias と呼ばれるようになってきている。

例をあげるとアマゾンの金色の草、タグア椰子の種、アサイの種などから製作されたアクセサリがある。植物のダイバーシティブラジルならではの様々な BioJoias が存在している。多くがそれらのアクセサリ製作によって地域の収益を得ている為、持続化の為に植物の生育に配慮して素材が使われているようだ。

例えば当社でも取り扱いをしている金色の草から製作されるアクセサリは、素材の草の収穫時期、収穫量が州法で定められている。又収穫したら種は土に戻すことも義務づけられてる。収穫量が少ない時は、製作した商品の価格をあげて現地の生計を保っている。フェアトレードとして、世界どこへ輸出する際にも現地製作者が決めた価格で取引される。

セラードの葉から製作された BioJoias



NSK ブラジル 57 年のあゆみ (大波にもまれながらの航海)



片岩 浩
(NSK Brasil Ltda. 代表取締役副社長)

1965 年創業

NSK Brasil Ltda. は、1970 年に設立され、生産拠点であるスザノ工場の操業開始は 2 年後の 1972 年だが、前身の NSK do Brasil Rolamentos Ltda. は 1965 年からベアリングの輸入販売を開始している。

当時の社長の今里広記より NSK (日本精工) として初めての海外工場進出の命を受け、立上げに必死に取り組んだ。その中心となった伝説の営業マン須藤氏の (現在 91 歳) より伺った草創期の様子を交え弊社の歴史を紹介する。



伝説の営業部長
須藤氏と奥様サンパウロのご自宅にて

草創期の営業活動

須藤氏は、販売拡大には、大手顧客で品質基準の厳しい自動車部品メーカーの BOSCH とブラジル大手家電メーカー ARNO に参入すべきと考えた。現地生産をしている欧州系の競合他社が強く、門前払いの日々が続いたが、日本からの輸入品の品質の良さが理解され BOSCH に他社品よりも大幅に優れているとのお墨付きを得た。輸入品は割高だったので、ごく少量の採用ではあったが、市場へのインパクトは絶大だった。

一方 ARNO は、他社の牙城だったが、そのサービスに満足していなかったこともあり、NSK の輸入品の購入を開始し、ブラジル工場進出を強くサポートしてくれた。

欧州系競合他社は、ブラジルへの進出が早く、1915 年に販売開始、1963 年に現地生産を開始し、既に全土にディーラーを持っていた。NSK が現地生産していくには、ディーラー網を拡充し販売を伸ばすことが不可欠だった。全国の主要都市を隈なく調査した結果、他社の価格やサービスに多くのディーラーは不満をもっていることが分かった。そこで、NSK は、規模に関わらず同価格にし、数年かけてディーラーを 80 社設置した。

生産工場立上げ

営業 (当時は 4 名) の獅子奮迅の働きの裏側で工場設立の準備が行われた。まず工場をどこにするかが最初の問題だった。その頃、中小都市の工場誘致が盛んでサンパウロの東方約 50km のスザノ市も熱心だった。また、スザノ市長は、日系の宮平氏で何かと相談しやすかった。そして今里社長が現地視察の際「ここに決めなさい」と即断され、80,000 平方メートルの敷地がスザノ市より無償提供された。その土地は元々沼地で、整地に苦労したが、日系の建設業者の骨身を惜しまぬ働きぶりでも何とか予定通りに完成した。

工場設備の輸入は、関税が法外に高いが、すべて最新鋭の新規設備であることを説明し、ブラジルの産業の発展にも貢献することが

大波の中で

ブラジルの様々な事業環境の大波の中でもまれながら現在に至っている。中でもインフレとの闘いは熾烈を極めた。ブラジルでは、営業の最大の仕事は値上げだった。インフレに合わせ毎日値上げ交渉を行い、それが約 20 年続く。値上げしてもお金が残らない当時の様子を須藤氏は「下りエスカレーターを逆に上っているような心境」と語っている。特に 1984 年頃から 94 年のハイパーインフレとその間 4 回のデノミ、預金凍結という最終手段まで登場し、経理マンは運転資金の工面と貨幣価値下落対策で銀行との金利交渉が毎朝の業務だった。

このインフレ下の決算は、証憑に基づく整理記帳、負債価値修正など膨大な仕事量となり、開発途上国としては早い時期にコンピューター化が進んだ。

次に待ち構えていたのは、輸入の自由化とレアル高によるスザノ工場危機だった。工場立上げ時に 40% 台だったベアリング輸入関税は、民営化・自由化政策により 95 年には 17% 近くまで下がっていた。

またインフレは、94 年の信じられない程の 2000% 近くから 98 年は 3% 台へと劇的に収束し、国内産業はレアル高による国際競争力の低下に苦しみ、安いアジアの製品が街にあふれたが、スザノ工場は一層のコストダウンに取り組み、今も海外勢と戦い続けている。そしてここ数年はコロナとの闘いもある。

ブラジルは、移民の国であり、人々は寛容性に富んでいる。そのため、先輩駐在員たちは思う存分腕を振るって活躍できた。帰任された方々は一様に「ブラジルは良かった」という。

数々の経済危機を乗り越えてきたブラジルに倣い、NSK も今後続くであろう幾多の困難をたくましく乗り越えていきたい。

おわりに

今回、本シリーズへの寄稿のお話を頂いた時、昨年赴任したばかりの自分にまとめられるか非常に迷ったが、自社の歴史を振り返る良い機会と思い切ってお引き受けしてよかったと思っている。寄稿にあたり須藤先輩、古口先輩にはたいへんご協力頂き、この場を借りて感謝申し上げたい。

▼現在の NSK Brasil Ltda.



サッカー株式会社の創設



柏 健吾
(TMI 総合法律事務所
日本法弁護士
現在ブラジルで勤務)

1. ブラジルとサッカー

ブラジルは言わずと知れたサッカー王国で、今年開催されるワールドカップの優勝候補の筆頭である。もちろん、ブラジルにおいては、代表チームだけではなく、国内のサッカーリーグの人気も依然として高く、ブラジルはサッカー選手の世界最大の輸出国である。もっとも、ブラジル国内のサッカークラブは、一部の有力クラブを除いて、多額の負債を抱え財政状況が非常に悪いチームが多く、ビジネスという観点では成功しているクラブは少ない。そのような状況において、ビジネス上もサッカークラブの運営を成功させることを目的に、2021 年法 14193 号（以下「SAF 法」という）により、サッカークラブの運営に特化したサッカー株式会社（Sociedade Anônima de Futebol. 以下「SAF」という）という会社形態が創設された。すでに多くのクラブが SAF に移行しており、たとえば、クルゼイロ（Belo Horizonte 拠点の名門チーム）が SAF になった上で元ブラジル代表のロナウドが同社の株式の 90% を取得している。本記事では、SAF 制度の概要を解説する。

2. SAF 創設の背景

ブラジルのサッカークラブのほとんどは、歴史的に、非営利の市民団体（Associação Civil）の形で運営されてきた。市民団体の場合、利益が出ても会員に配当できず、また、株式のようなものがないため、クラブを他社に売却することもできず、また、外部からの資金調達も容易でなかった。SAF は、サッカークラブの本質を保護しながら、サッカークラブの事業価値の拡大を図る目的で創設された。

3. SAF の設立方法

SAF を設立する方法は、①既存クラブの SAF への組織変更、②既存クラブの一部を会社分割の方法で SAF へ承継、③ SAF の新規設立の 3 つの方法がある。①と②の場合、既存の選手との契約は SAF に承継され、また、リーグ戦などに承継時と同じ条件で参加できる。②の場合のその他の権利義務の承継や取扱いについては SAF 法で規定されている。①及び②を行う場合、既存クラブの規程に従い意思決定される。

4. SAF の特徴

(1) 会社の目的が法定されている

SAF はサッカークラブの運営のために設立される法人であるため、事業活動もサッカー及び保有するサッカーに関する知的財産権や不動産に関するものに限定されている。

(2) 株式が発行される

通常の株式会社と同様に株式が発行されるため、新たな株式の発行や既存株式の売却が可能である。

(3) 資金調達

サッカー株式会社は、運営資金のために社債（Debêntures-fut）を発行することができる。

(4) 利益配当できる

市民団体の場合は利益があっても会員に配当できないが（自己の事業に再投資するしかない）、株式会社の場合は配当可能である。

(5) ガバナンス

SAF は、業務執行する取締役だけではなく、経営審議会及び監査会を必ず設置しなければならない。通常の株式会社の場合は取締役 1 名のみを選任すれば足りるため、SAF はより厳しいガバナンスを要求している。なお、市民団体の場合は、会員の投票によってクラブの意向と関係なく経営陣が変わる可能性があるが、SAF は株式会社のため、議決権の過半数を有する株主が経営陣を選任することができ、その結果、安定的なクラブ運営が可能となる。

(6) クラブの伝統の保護

SAF は A 種株式という種類株式を発行しなければならない。そして、クラブの起源となった市民団体が少なくとも 1 株の A 種株式を保有している限り、同団体は、クラブの名称、シンボル、チームソング、本拠地等の変更に対して拒否権を有する。また、A 種株式が議決権又は株式資本の 10% 以上である場合、SAF が市民団体より承継した知的財産権や不動産の処分、合併等について A 種株主は拒否権を有する。

(7) 特別の税制

サッカークラブが歴史的に市民団体の形で運営されていた理由の 1 つに様々な税金の免除があった。そこで、SAF 法は、市民団体が SAF に移行しやすいように、SAF に特別の税制を適用し、税金の負担を軽くしている。

(8) 負債の処理

多額の負債を抱えているクラブが多いため、SAF 法は、既存の債務の処理について 2 つの方法を規定している。1 つ目の方法は集中執行制度（Regime Centralizado de Execuções）という制度である。これは、裁判所の許可を得ることにより、市民団体が SAF に移行するに際して、既存の市民団体に債務を残したうえで、市民団体による債務の返済を 6 年間に設定する制度である。SAF は、市民団体による債務の返済の原資として収益の 20% を市民団体に支払う。また、市民団体は SAF の株主として得る配当の 50% を支払いにあてる。6 年間の期間終了時に債務の 60% が支払われた場合は残りの債務のためにさらに 4 年間延長される。この期間の差押え等は禁止される。2 つ目の方法は倒産法に基づく民事再生手続の利用である（市民団体は民事再生手続を利用できなかった）。民事再生手続を利用しても、選手との契約は同手続の影響を受けず、SAF に移行する。

(9) SAF の責任

SAF は、市民団体から承継した債務を除き、市民団体が有する債務については責任を負わない。ただし、市民団体が支払いを行わない場合、SAF の業務執行者並びに市民団体の代表者及び業務執行株主は連帯責任を負う。

最新・内部監査潮流



ラージ・フェルナンド (KPMG ブラジル
リスクコンプライアンス
パートナー)
三上智大 (KPMG ブラジル
ジャパンデスク
マネージャー)
天野義仁 (KPMG ブラジル
ジャパンデスク
責任者)

KPMG 2021 CEO Outlook 調査では、各企業の CEO は、戦略的提携、M&A、デジタル技術への投資拡大を中心に、あらゆる方法で事業や組織の拡大を図ろうとしていることが伺える。このような積極的な成長姿勢と、新たなレベルのデジタルアジリティを浸透させる決意により、内部監査部門はサイバーセキュリティとデータセキュリティの新たな課題に直面することになるであろう。内部監査部門が直面する規制やリスク分野は、変革を成功させるための中心的な要素であり、経営陣、監査委員会、各ビジネスユニットのマネージャーの期待の変化に対応できるかどうか、変革の成功のカギとなる。内部監査は、限られたリソースでより効率的に作業し、より短時間でより多くの価値を生み出すことを使命としているが、これらの重要な新しいリスクを効果的に評価し、ビジネス価値を高めるための変化を可能にするという役割のバランスを巧みに取る必要がある。内部監査の日常業務において、テクノロジー、データ、自動化がますます重要な役割を果たすようになり、監査人材の形態も、より技術に精通した監査専門家を統合する方向に進まなければならない。内部監査のリーダーにとって、リスク管理プロセスやコントロールの評価には、より多くのテクノロジーが必要になり、これらの要求の高まりは、新たなスキル、マインド、能力を必要とする。内部監査には、これまで以上に積極的かつダイナミックで、テクノロジーを重視した取り組みが求められる。

変化に対応するための内部監査アジェンダ

先進的な組織は、内部監査のあらゆる分野における劇的な変化に対応するためのアジェンダを描いている。このアジェンダには、以下の 6 つの領域が含まれている。

- ・対ステークホルダー／エンゲージメントと信頼
- ・デジタルアクセラレーション
- ・データアナリティクス&インサイト
- ・戦略バリューマネジメント
- ・新たな働き方
- ・アジリティー運用モデル

例えば「戦略バリューマネジメント」においては、戦略はより大きな保証、リスクに関する洞察、ビジネスの改善、これらすべてをステークホルダーのニーズに合わせて検討する必要がある。内部監査部門が「問題の特定者」から「解

決者」へと移行する中で、戦略的に重要かつ将来を見据えた新たなリスク（サイバーセキュリティ、データセキュリティ、デジタルトランスフォーメーション、サプライチェーン、組織文化や人材等の劇的な変化、ESG 課題と新たなコンプライアンスニーズ等）を優先させるべきである。実際、データ及びテクノロジー関連のリスクは、組織にとって最も影響力のある新たなリスクの一つであると捉えられている。

ブラジルにおける内部監査上の課題及び対応

ブラジルは他国と比較しても、サイバーアタック、贈収賄、汚職等、企業が直面するリスクが高い傾向にある。実際、あるブラジル企業ではサイバーセキュリティに関するコントロールを除外したその年にサイバーアタックを受ける事例も存在している。複雑な税制及び多くの税務訴訟又は労働訴訟等についても、ブラジルの企業では引き続き税務及び労務コンプライアンス対応は重要である。

今までのリスクへの対応に加え、ブラジルではテクノロジーの発達も進んでおり、データセキュリティの新たな課題への対応等、内部監査を通じて戦略的・業務的リスクを予測及びマネジメントすることは、ますます必要かつ複雑になってきている。しかしながら、各企業のデータ量や使用システムが過去と比較して増加している中、会社自身、全てのデータを適切に把握しきれていない、システム間のデータに不整合がある等の背景により、内部監査が有効的に実施できない状況もみられる。また、内部監査部門においてもコーポレートガバナンス、サイバー、税務及び労務、財務、テクノロジー、IT 等幅広い分野に精通している人材育成が大切であるが、自社のリソースで全ての分野を常にアップデートしていくこと、また、人材流動性が高いブラジルにおいて自社に当該リソースを留めておくことが難しい状況になってきている。

テクノロジー等、業務の複雑化が進み、特定するリスクも変化を続ける中、内部監査のプロセスについても従来型から脱却する必要がある。一方、内部監査に係る人材育成及び確保も難しくなっている。現状の内部監査の有効性を再確認すると共に、必要に応じて第三者専門家等の活用をしながら、直面している又は直面するであろう様々なリスクに応じた内部監査の高度化を推奨されたい。

リオから理桜へ



山瀬理桜
(ヴァイオリニスト、ノルウェー・ハルダンゲル親善大使
北欧 SDG s 研究家) 吉本興業文化人 所属

吾輩はリオである。名は両親によって付けられた。私はヴァイオリニスト。不思議なご縁で北欧ノルウェーとのかかわりが出来、ノルウェーの民族楽器「ハルダンゲルヴァイオリン（現地名ハーディング・フェーレ）」を日本やアジアに広め、その功績が認められて、ノルウェーのハルダンゲル自治区から「ハルダンゲル親善大使（Good-will ambassador of Hardanger）」の任命を受けた。

一見ブラジルには縁がない様に思われるが、私の名前は山瀬 理桜 (RIO YAMASE) だ。「リオ」の名の由来は、ブラジルのリオデジャネイロからで、実は半世紀以上に、ピアニストを目指した母の留学先となったのがブラジルだった。母は、はじめクラシックの本場ヨーロッパに留学をしたかったそうだが、母の両親は女性 1 人がヨーロッパ留学する事をとても心配したため、ブラジルなら親戚も住んでいて、またヨーロッパ留学帰りの良いピアノの先生がいる事が決め手となり、ブラジル留学が決まったそうだ。

その時の渡航（昭和 37 年）約一カ月の「ぶらじる丸」での航海で、2 等航海士だった父との出会いがあった。
(下記参照：父の一方的な一目惚れから始まったそうだ。)

当時（昭和 37 年）、今の商船三井（当時は大阪商船）で私が 2 等航海士として乗っていたのは、ニューヨーク航路の新造船（貨物船）だった。神戸に帰港し停泊中、突然同じ神戸にある「造船所」に入渠修繕工事中の「ぶらじる丸」への転船が 7 月 20 日に命じられた。その頃、外国航路の客船を運用していたのは「大阪商船」だけで、客船は全体の 1 割の 5 隻で、「さんとす丸」や「ぶらじる丸」が人気だったことを覚えている。「ぶらじる丸」の出航予定が早まり、9 月 2 日に横浜港出港。

当時の客船では 2 等船客のディナーに、2 等航海士、2 等機関士、2 等通信士、事務員が陪食（お客様のお話し相手）するのが決まりであった。従って最初の出逢いは、9 月 2 日出航後の 19:00 時からのディナーであった。

2 等のお客様は全部で 30 名程、4 テーブルのそれぞれ決まった席で食事を楽しむことになっており、我々の席には 2 等通信士もいて、楽しい食事だったことを思い出す。

お客様との接点が少ない運航要員だったが、ディナーは華やかで楽しく、そんな航海を経験したのは幸いだった。サントスに到着し、その後はブラジル丸を降りて、しばらくは他の船に乗っていたが、その間は手紙を送っていた。

昭和 39 年に、東京のご実家からの荷物を届ける事が理由で再会し、今にいたる。(山瀬尋己)

沢山の国や船がある中で、いくつもの偶然が重なり両親は出会った。この様な運命的な偶然の重なり合いがなかったら、両親は出会うこともなく、私もこの世に生をたななかったかもしれない。母は特にブラジルでの思い出が深く、10 歳離れた姉には、当時聴くことで元気付けられた地元ラジオ「ムジカ・リリカ」から「リリカ（里理香）」と名付け、1 月に生まれた私にはリオデジャネイロの「リオ（理桜）」と名付けた。

今、姉のリリカは、ピアニストを目指した留学先のロンドンでノルウェー人と縁が出来、ノルウェーで生活をしている。私はノルウェー文化と縁が出来、ブラジルが「縁」で付けられた名を持つ私たちは、ノルウェーを舞台に仕事をしている。

「悪いのはお天気ではなく、着ている服だ。」

世界幸福度ランキング毎年上位の「ノルウェー」。ブラジルとは異なる、厳しい風土と天候のノルウェーが、なぜこんなにも「幸せ」なのか。ノルウェー人の「幸せ」の考え方や捕まえ方を、ノルウェー人の有識者 17 名にインタビューし、1 冊のエッセイ本にして 2022 年に発売させて頂いた。(著：山瀬理桜／出版社：豆点社)

タイトルはノルウェーの有名な諺「悪いのはお天気ではなく、着ている服だ。」から。

厳しい状況でも、着ている服を変える事で、より良い結果（未来）を作って行こうという、ノルウェー人のしなやかな考え方をを感じる事が出来る、大好きな諺である。

私の親戚をはじめ、日本からブラジルに渡った多くの先輩方も、当時はブラジルで色々な困難があったと思う。しなやかな考え方と行動で困難を乗り越えられ、多くの日本人が活躍されている現在のブラジルをみたく、10 年前に初めて思い出の地ブラジルへ渡航した。

初めて降り立ったサンパウロの空港では、不思議な事に私のフライトチケットを見て多くのブラジル人スタッフが大笑い。(私の名前 OTA RIO を指さして) 目を丸くしながら「これは何？」と毎回聞かれるので、「私の名前だけど……」(爆笑！)

不思議に思い Google 翻訳で調べると、OTA RIO はポルトガル語で「おバカちゃん」と訳され、私もひとしきり大笑い。たまたま結婚した人が「太田」だったことで、ブラジル人が大喜びする名前になった事にも改めて不思議な縁を感じた。ブラジルでデビューするときは、山瀬理桜 (YAMASE RIO) でなく、ブラジルの皆さまに覚えてもらえそうな太田りお (OTA RIO) でデビューしたいと思っている。

VIVENDO

ブラジルに暮らして

パウリスターノ(サンパウロ市民)＝ ずる賢い＋アツアツのカルボナーラ?!

サンパウロ市で一人暮らしを始めて早 9 か月。「時が秒で過ぎる」とはまさにこのこと。あと少しでこの土地を去ってしまうのがにわかに信じがたい。

振り返ると色々な事があった。異国の地で初一人暮らしというのも挑戦だったが、盗難、置き引き、コロナウイルス罹患。「ブラジルで起こりえる災難トップスリー」を一年足らずでコンプリートした。

出会ってきた人々は、おせっかい&嫉妬焼きで、友人&家族想いで、冗談ばかり言って、感情がすぐ顔や態度に出て、ずる賢くて、言動に愛があって、暖かい。「ずる賢さ」といっても、他人を騙すために悪用する者と、自分とその周りの大切な人たちが生きるために使う者など様々なで細心の注意を払う必要はある。

少しでも態度や表情が違えば、「どうしたの?」とすぐ駆けよって暖かいハグとキスをくれ、こちらが恥ずかしくなるくらいどストレートに気持ちを伝えてくる。気づけば会話の節々に冗談をいれ大幅に話をずらし、帰国のことを話すと、笑顔だったのが 180 度急変して死んだような顔になる。「週末は何したの?」「旅行はどうだったの?」と私の生活にどどんのめり込んでくる。まるで、カルボナーラのように濃密だ。

初めての時のブラジル。ファヴェーラ地域の NGO 施設で働いていたのだが、最終日に置き引きに遭った。信用し切っていた分反動

で警戒心がゆるゆるになっていたし、何よりそこにいた愛おしい子供たちのうちの誰かがいたとも思いたくなかったが、「ブラジルの別の顔」「子供たちが置かれている状況」を痛感した。複雑な気持ちを抱えながら日本に帰国。ブラジルにまた飛ぼうとはその時点では考えていなかった。

しかし、気づけばまたココ（ブラジル）にいる。コロナ禍の影響で 72 時間以内の PCR 陰性証明書や、コロナワクチン接種 2 回目まで、大学への書類提出だったり、決して楽とは言えない事務作業が必要だったにも関わらず。

「濃厚な交流」を本能为求め、「ずる賢さ」から何かを吸収しようと、学ぼうと思ったのだろう。

私にとってブラジル人との交流は「頭脳戦」だ。いかにして良い人が悪い人を見極め、そこに自分をどの程度混じらせていくか。そんな戦いに満ち溢れた日々は、9 か月経った今でも飽きがくることはない。

僅か一年で、「ブラジルはこうであった」と一括りに定義付けることは出来ない。将来にブラジルがどう関わってくるのかは未知だが、ブラジルの人々が何かしらの形で私を呼び寄せるのではないかと、期待を込めて締めとする。

ジャーナリストの旅路

日本は南米に学ぶ時

10 月のブラジル大統領選でルーラ元大統領が現職のボルソナロ大統領を下した。既にニュースで語り尽くされている選挙結果についての解説という野暮な真似は避けるが、今回の選挙は、改めて南米大陸における民主主義の難しさを示したように思う。

私は 2017 年 4 月から 21 年 9 月まで 4 年半サンパウロ支局長として南米大陸を見ていたが、前半と後半はまるで別世界のような感覚だった。着任当初、アルゼンチンには開放経済の旗手として世界中から注目を集めるマクリ大統領がいて、ブラジルではテメル政権からボルソナロ政権へのリレーがあり、改革への期待で投資家や外資系企業からの資金流入が絶えなかった。

しかし、任期後半はアルゼンチンの通貨危機にはじまりチリの暴動、新型コロナウイルスの蔓延と悪いニュースばかりが重なり、格差は正を求める人々のうねりは投票を通じて南米各国で左派政権を誕生させた。私が住んでいたサンパウロでも、新型コロナ禍で富裕層が食事のデリバリーから買い物、犬の散歩まで外注して安全な家の中で暮らす中、低所得者層が病院にかかることもできずに家で死んでいくという様子を目の当たりにした。「大企業から政治を取り戻す」と呼び、

低所得者達に現金を配ると約束する大衆迎合（ポピュリズム）的な政治家が人気を集めるのは仕方がない面がある。

一方、ブラジルの報道や SNS を見ていると、2000 年頃の高成長の再現をルーラ氏に期待する人々が多いように見受けられる。しかし、マクロ経済的な観点から、それは難しいと言わざるを得ない。資源価格の高騰がそのまま経済成長に繋がるような、牧歌的な時代は終わった。それはブラジルに限った話ではなく、アルゼンチンの左派政権が経済運営に苦勞しているのも、ペルーで新政権が混乱しているのも、コロンビアの新政権が右往左往しているのも、すべて地続きだ。

経済の専門家の意見を無視して現金をばらまいて国民の歓心を買った所で、市場の圧力がある限り、野放図な財政支出は持続可能ではない。しかし、SNS が発達し政治家が直接市民に声を届けられるようになった結果、専門家の声はかき消された。

日本にとっても、他人事ではない。帰国後の国政選挙では、社会保障費の膨張や移民政策、原発の再稼働など、国民の反発を招く議論は曖昧なまま、与野党とも現金を配ると連呼する様子を目の当たりにした。今こそ、日本が南米に学ぶ時なのではと強く感じる。

野口くるみ
(ブラジル日本交流協会研修生)



人類学者ダルシー・リベイロ(1922-1997) 生誕100周年 文人学者にして教育行政の革新者

岸和田仁 (『ブラジル特報』編集人)

生誕100周年記念展示会

SESC サンパウロを会場とした「Utopia Brasileira (ブラジル流ユートピア): ダルシー・リベイロ生誕百周年展」が2022年11月18日から2023年6月25日まで開催されていることもあり、改めてこの著名学者が注目されている。筆者も彼の著作には親しんできたので、この機会にこの元文部大臣についてメモを重ねてみたい。

ダルシー・リベイロの半生

地元(ミナスジェライス州)の有力な医師として住民から慕われていた伯父のドートル・ブリニオにあこがれて医学部に入学したものの、暗記ばかりを強要する大学医学部の授業に幻滅してしまったダルシー青年は、文学や哲学研究に「転向」し、マルクス、フロイト、ニーチェを耽読し、当時の新文学潮流を切り開きつつあったジョルジ・アマードやグラシリアーノ・ハーマスをむさぼるように読みながら、当時の知的青年層の例に漏れずコミュニストとなっていく。

人類学者となったダルシーは、内陸部のフィールドに入り込んでインディオ研究に専念していくが、彼の先住民研究はブラジルという国と民を全体として把握するための一環であり、ブラジルの現実に即したマルクス主義を構想するのが目的であった。こうして名著といわれる著作群(『文明化のプロセス—社会文化的進化の諸段階』、『アメリカ諸国と文明—アメリカ諸国民の平等発展の原因と形成プロセス』、『インディオと文明—近代ブラジルにおける先住民の統合』など)が生み出されるが、象牙の塔に閉じこもるタイプではなく、社会・政治に積極的に関与していく。

まずインディオ保護行政の立ち上げに取り組むが、間もなく中央行政に招へいされ、ジョアン・グラール政権の文部大臣になったのは29歳の時だ。この前後の業績といえるのが、その後多くの逸材を輩出することになるブラジリア大学の創設(1962年)だろう。

1964年に軍事政権が成立するや、「危険分子」と見られていたダルシーは、海外亡命を余儀なくされる。ウルグアイ、ベネズエラ、チリ、ペルーなどで12年間過ごすことになるが、おかげでラテンアメリカ諸国の現実を実生活を通じて「頭と身体で」深く理解できたばかりか、数多くの学者や文人、政治家と親交を結んだのであった。1976年にブラジルに戻ってからは、PDT(民主労働党)の党首プリゾラと行動を共にする。彼がリオ州知事に当選(1982年)すると、州の教育長官(兼副知事)とし

てCIEPS(公教育統合センター)という全日制の州立学校を創設しただけでなく、その後のカーニバル風景を一変することになる。常設会場サンボードロモをオスカー・ニーマイヤーの協力(設計)を得て建設する(1982年)。すなわち、リオのカーニバルの壮大なパフォーマンスが革新されたのは、サンボードロモを企画立案したダルシーのおかげとってよい。

▼ダルシー・リベイロ



ラテンアメリカ版 EU を夢見る

以上、ダルシーの半生を駆け足で追いかけてみたが、理想主義者肌の、いささか堅苦しい学者のように思えるダルシーは、実際は周囲の者を魅了する話術に巧みなボヘミアンでもあった。彼は学術書ばかりか小説も手がけた文人でもあるが、自伝『告白録』は500頁以上もある分厚いものだが、叙述が小説のように読み始めると止まらなくなる。なにしろ、あちこちに「イタ・セクスアリス」の断片があるからだ。徴兵検査で行列に並んだが、性病と診断されたおかげで不合格となった、とか、ヨーロッパへの旅行中、ジュネーブでの娼婦との一晚のこととか、有名学者がここまで書いていいの、といたくなるような赤裸々な記述が続くからだ。

彼が晩年心血を注いだのが、主著とみなされる『O POVO BRASILEIRO』(ブラジル国民)(1995年)である。ブラジルの成り立ちを歴史人類学の視点から整理して過去から将来への展望まで書き込んだ作品だが、前半はインディオ研究の総復習で、後半で、三大要素のポルトガル、インディオ、アフリカ黒人に外国移民が追加され、多様なブラジル人が形成されたことを説いている。

ブラジルを分類すると、Brasil crioulo(ノルデスチ)、Brasil caboclo(北部アマゾン)、Brasil sertanejo(内陸部)、Brasil caipira(農村文化)、Brasis sulinos(欧州南部)と、いくつものブラジル(Brasis)がある、と整理したうえで、あらためて、ブラジル人とは何か、と問うのが最終章だ。南北米大陸諸国を見渡してから、「我々ブラジル人は、肉体も精神も混淆した国民なのだ、なぜなら当地では人種間混淆は犯罪でも過失でもなかったからだ。」として、「我々(ブラジル人)の到達目標は、アングロサクソンのアメリカに拮抗し、すべてのラテンアメリカ諸国と融合して、EU(ヨーロッパ連合)の如き、シモン・ボリバルが夢見た「ラテンアメリカ国家」を創設することである。現在、我々は5億人であるが、将来は10億になるであろう。(中略)実際のところ、我々は新しいローマ(帝国)なのである。そう、遅れてきた、トロピカルなローマだ。」とラテンアメリカ統合の夢を語っている。

●ボルソナロ支持政党の選挙への異議申し立て

(1) コスタ・ネット・PL(自由党)党首は22日、「2020年以前に製造された旧型の電子投票箱には欠陥(フリーズ後に再起動した場合、投票の秘密が守られない可能性がある)があるため、大統領選の決選投票において、旧型の電子投票箱を使用した投票は全て無効とすべきである」との報告書を選挙高等裁判所(TSE)に提出した。今回の選挙で使用された旧型の電子投票箱は約27.9万台であり、PLの試算によれば、これら旧型の電子投票箱が使用された票を排除すると、ボルソナロの得票率が51.05%(ルーラは48.95%)となり、ボルソナロが当選することになる。これに対し、モラエス選挙高等裁判所(TSE)長官は、「決選投票で使用された電子投票箱は、第1回投票で使用されたものと全く等しく、決選投票のみに関する異議申立には納得しかねる」として、PLに対し、第1回投票(PLが大勝した連邦議員選挙、知事選挙等も含む)に関するデータを24時間以内に提出することを求め、これに応じない場合には異議申立の受理を拒否すると決定した。(11月23日付コレイオ・ブラジリエンセ)

(2) コスタ・ネット・PL党首は23日、記者会見を開き、TSEに対する異議申立が旧型の電子投票箱を使用した投票の無効を主張し、ボルソナロ大統領の再選を可能にするためのものであることは認めたが、選挙そのものの無効を求めることが目的ではなく、大統領選の第1回投票、連邦議員選挙、知事選等是有効との見方を示した。同党首は、国際選挙監視団や軍が選挙の公正さに問題はないと結論付けた件に関しては「国際選挙監視団は深く掘り下げて監視を行ったわけではない」と反論した。また、同党首は「(ボルソナロが落選しても)ボルソナロ主義が無くなることはない」と強調した。その数時間後、モラエス・TSE長官は、「(PLの異議申立は)根拠が全く無いにも拘らず、民主主義と法の支配を攻撃するために行われた、奇妙且つ違法な申立であり、PLには、訴権の濫用により、民事訴訟法第81条に基づき、2299万レアルの罰金を科す」と決定し、PL等、大統領選ではボルソナロ陣営を形成した与党連合の政党助成金凍結を命じた。これに対し、PLは、「PLは、選挙法に基づいて選挙の監視活動を行っただけである」との声明を発表。(11月24日付コレイオ・ブラジリエンセ)

キャンパス・コラム

地球の反対から、よりよい政治感覚を探る ～2022年度ブラジル大統領選を受けて～

村椿洋平

(東京外国語大学国際社会学部4年)

「政治の話は難しいからしたくないなあ」大学1年のときポルトガル語を学ぶ傍ら、ブラジルやポルトガルの政治体制に関して話題を振った際に同級生から飛び出してきた言葉である。政治の話が難しい?どこが?選挙の話だぞ?歴史なり公民を勉強してきた人間と話すからこそ知識が深まるんじゃないか、と当時の私はかなり不満を募らせていた。折しもその年はブラジルにおける大統領選があった年で、米国に続く極右体制のボルソナロ氏が当選した時であった。世界や日本の歴史を通じて東條英機、ヒトラーやムッソリーニなど強権的政治家の誕生背景を学んできた私には「政治に対する思考停止はいずれこうした強権主義的政治家を生み出してしまおう」という考えがあり、同級生の発言に少なからず不満を覚えたのを覚えている。

そこから訳あって大学に計5年弱在籍することとなり、その間経験したコロナ禍による挫折や就職活動での経験を経て友人たちの言った意味がわかるほど成長できた(と信じて)。確かに私もこうした知識を周りの人々の協力のもと得られたこと、そして全ての人々が政治に対して深い知識を得るほど余裕のある生活を送れるわけではないことを改めて自覚した。私を含む市民が日々の生活を送るうえで

は「いかに1日を低コストで過ごすか」という点の方が重要であろうし、国家元首が変わったところでその命題が変わるわけではない。その点で考えると、大学1年時点での同級生の言葉はある意味合理的である。ましてや日本から遠く離れたブラジルの話、日本人学生で気にかける人は稀だろう。

だが、日々の暮らしが忙しいからといって思考停止で政治を見ていいと割り切ってはならないと思っているのも事実である。すぐには生活には影響しないとはいえ、「主権者から信任を受けている」という名目で国家権力が一部の人間の権利を侵害しない保証はどこにもないからだ。今回ブラジルの大統領選にてボルソナロ氏が落選し、元大統領を務めた左派のルーラ氏が当選した。汚職の危険性が拭えぬブラジル政治であるものの、反汚職を絶対的正義として政治活動をしていけばよいわけではない。その極端な思想がウクライナとの戦端を開いた北国の暴君、もしくは香港や台湾を脅かす隣国の指導者に見られる。今後ブラジルのみならずすべての国々の政治が中道へ向かっていくよう、学生社会人関係なく、投票を欠かさぬ決意を新たにしたい出来事であった。

新刊書紹介

◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆

『ブラジルの社会思想

人間性と共生の知を求めて』

(小池洋一・子安昭子・田村梨花編)

「ブラジルの社会思想を紹介することを目的として」編纂された一冊。マシャド・ジ・ア・シス、セルジオ・ブアルケ、ジルベルト・フレイレ、ダルシー・リベイロ、カイオ・ブラード・Jr からシコ・ブアルケ、シコ・メンデスまでブラジルの社会科学・人文科学や文学を革新し豊饒化した学者・作家・社会運動家らについての本文 20 章とコラム 20 本。各執筆者の専門知が生かされた論考が収録されており、近現代ブラジル思想の総合案内書だ。

(現代企画室 2022年12月 502 頁 3,300 円＋税)

『池上彰の世界の見方 中南米』

都立新宿高校で行った講義を一冊にまとめたものだが、中南米を歴史と地政学の視点からうまく解説し、生徒

と Q&A のやり取りをしながら語る手法が成功している。米国との因縁の関係から最近の中国との経済貿易相互関係まで手堅く整理しているが、ブラジルに関しては、経済史をみながら日系移民史をおさえ、勝ち組負け組抗争も 1990 年代以降のデカセギ現象もポイントを押さえた解説がなされている。ただ一部に事実誤認があるのは残念だ。

(小学館 2022年12月 236 頁 1,400 円＋税)

『世界珍食紀行』(山田七絵編)

世界各地の様々な食文化についての小エッセイ 39 本をまとめた一冊。著者たちは「アジ研」の職員。ほぼ世界全域をカバーしており、食べ方のウンチク話など“熱弁”もあれば報告書風もあり、と記述の濃淡も面白い。ブラジル篇はフェイスジョアダとベキーがエントリ。イギリス篇「レストランに関する進化論的考察」は卓見。但し、地域研究のプロたちが、各国の地元メシ文化を“珍食”と表現することに違和感を持たないことに、違和感あり。

(文春新書 2022年7月 256 頁 980 円＋税)

『日本の珈琲』(奥山儀八郎著)

コーヒー研究者の間では“幻の名著”

といわれていた『珈琲遍歴』(1973 年刊)がタイトルを『日本の珈琲』と改題して文庫化された。木版画家の著者が長崎など日本中の研究者と古文書を探求調査した成果をまとめた“コーヒー百科全書”であり、世界のコーヒーの歴史を踏まえて日本におけるコーヒー受容の歴史を、日本の珈琲の始まり、日本の珈琲文献、日本への渡航者と珈琲、海外渡航者の珈琲記事、新日本と珈琲、といった章に分けて詳述している。

(講談社学術文庫 2022年9月 288 頁 1,110 円＋税)

『移民研究年報 第 28 号』

(日本移民学会編集委員会)

掲載論文のなかでは、①移民学会創立 30 周年記念シンポジウム報告 5『コロナ危機と在日ブラジル移民の“失われた 30 年”、そして移民研究の次なる 30 年』(アンジェロ・イシ)、並びに、②公募研究ノート『在日ブラジル人としての「私」の移動』(大川ヘナン)が熟読に値する。アンジェロ教授は、『移民研究者は在日外国人の「良き理解者」になれているか』と自問し、大川氏はエスノグラフィーの手法で自身の移動物語を考察している。

(明石書店 2022年6月 156 頁 3,000 円＋税)



!!「ブラジルあれこれ」!!

『O Analista de Bagé』を読んでみた(2)

本誌 11 月号の本コラムでは、作品の伏線となっているガウーショ文化に触れた。今回は、作品にあふれる「ガウーショ感」について、「ガウーショ言葉」と「シュラスコ」について書いてみよう。

まず、主人公の精神科医から発せられる「ガウーショ言葉」は、スペイン語交じりである。(スペイン語そのまま(例: no más=「さっそく、じゃあ」)に加え、ポルトガル語化した表現(例: che ⇒ tchê=間投詞「おい、あのね」)もある。)この地方では、アルゼンチンやウルグアイというスペイン語圏諸国と国境・牧童文化を共有し、スペイン語由来の表現が多用される。牧童世界の呼びかけの言葉「bagaal(荒馬)」や「índio velho(老いた牧童、この場合、índio は、牧童のこと)」も多用され、「ガウーショ感」を高めている。更に、よく使われるのが「fresquear(-se)」(意味としては、「よく考えて、慎重に」ぐらいのところか?)という表現だ(短編中では、窓から飛び降りそうな患者に対し、主人公が Te fresqueia!(早まるな!)と叫ぶ場面がある)。ブラジルの権威ある辞書 Aurélio や HUAISS にも載っていない表現だが、この地方でよく使われるようだ。さらにご関心の向きは、インターネットで検索すると「O Dicionário de Gaúchos」などという用語集が簡単に見つかるはずだ。

続いて、ガウーショ食文化の代表格、シュラスコについて。ガウーショのシュラスコへのこだわりは強い。ポルトアレグレ時代、息子の誕生日に自宅でシュラスコをして、招待客に食べさせたことがあった。

事務所の運転手の P さんに依頼しておいたところ、1 週間ほど前から、最良の肉屋に希望を伝えて、肉を吟味した上で、当日は慣れた手つきで肉を焼いてくれた。この時のシュラスコは、今まで食べた中でも一番おいしかったと思っている(ポルトアレグレでは、ほとんどの家に作り付けの煉瓦製 churrasqueira があった)。さらに、地元チームのインテルナシオナルの本拠地 Beira Rio スタジアムのシュラスカリアでは、お盆の上でブルブル揺れるクッピン(Cupim: 牛の背のこぶ)やコルデイロ・ママン(Cordeiro Mamão: 乳飲み子羊)を食べて感動した。余談になるが、このころ、家族で日本に一時帰国した。国内旅行を楽しもうということで、伊勢志摩に行き、帰りに松坂で「和田金」に寄って松坂牛の「あみ焼」を堪能した。肉が焼けて仲間さんが取り分けてくれた肉を食べようという時、当時 3 歳の息子から衝撃の一言が飛び出した。「僕はこのお肉は食べたくない。ブラジルのお肉が食べたい。」その後、小さなガウーショだった息子は、完全に日本に「同化」し、今では、「飛騨牛もいけるね。」などと生意気を言っている。(MK)



▲ Churrasco Gaúcho
(第15回ブラジルフェスティバル)
(写真提供: 沼田行雄さん)

ブラジル赴任の前に ビジネスで使えるポルトガル語を



ブラジルでビジネスや生活をする上で
欠かせないのがポルトガル語です。

BrAsia(ブレイジア)では、
赴任前と赴任後の語学研修を提供します。
「講師任せにはしない」
現地に精通したスタッフが進捗を管理します。

BrAsia(ブレイジア) 運営:株式会社 漢和塾 〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-12 楠本第17ビル5階
TEL03-6263-0716

お問い合わせは E-mail: brasia@kanwajuku.com HP: <http://brasia-j.com/>

日系ブラジル人採用 ~40年以上の実績~

人材で拓く未来のイノベーション

製造請負・製造派遣・技術事業・
人材紹介／紹介予定派遣
業務委託(管理代行)・特定技能登録支援機関
留学生支援サービス



東京オフィス
東京都新宿区西新宿3-2-11新宿三井ビルディング二号館
TEL: (03) 3286-8686 FAX: (03) 5322-2311



日本ブラジル中央協会

講座のご案内 冬期ポルトガル語講座 受講生募集中

- 全くの初心者コース【火曜 16:30 〜】 秋期からの継続 (決められたテキストを使用)
全 9 回 1/10、17、24、31、2/7、14、21、28 3/7
- 初心者コース【火曜 19:00 〜】 秋期からの継続 (決められたテキストを使用)
全 9 回 1/10、17、24、31、2/7、14、21、28 3/7
- 初級Ⅰコース【金曜 19:00 〜】 秋期からの継続 (決められたテキストを使用)
全 9 回 1/13、20、27、2/3、10、17、24、3/3、10
- 初級Ⅱコース【水曜 19:00 〜】 秋期からの継続 (決められたテキストを使用)
全 9 回 1/11、18、25、2/1、8、15、22、3/1、8
- 中級コース【月曜 19:00 〜】 基本的な日常会話ができる方対象 (テキスト不使用)
全 9 回 1/16、23、30、2/6、13、20、27、3/6、13
- 上級コース【木曜 16:30 〜】 上級者のための実力養成コース (テキスト不使用)
全 9 回 1/12、19、26、2/2、9、16、3/2、9、16 (2/23 休み)
- 上級コース【木曜 19:00 〜】 上級者のための実力養成コース (テキスト不使用)
全 9 回 1/12、19、26、2/2、9、16、3/2、9、16 (2/23 休み)
- 上級会話コース【隔週土曜 11:00 〜】 自由な雰囲気での会話コース (テキスト不使用)
全 5 回 1/14、1/28、2/18、3/4、18 (2/11 休み)

イベントのご案内 ※詳細は、決まり次第 HP でお知らせします。

- 第 5 回 ブラジル料理教室 講 師：いしづあきこ先生、星淳子先生
日 時：2022 年 1 月 21 日 (土) 11:00 〜 14:30
場 所：としま区民センター 〒170-0013 東京都豊島区東池袋1丁目20-10
参加費：4,000 円
- 武田真由子氏 ランチョンミーティング
演 題：演題「アマゾンの野生チョコレート」(仮題)
日 時：2022 年 2 月 13 日 (月)
場 所：シュハスカリアキボン! 新虎通り CORE 店
- 小林麻紀 外務省中南米局長 オンライン講演会
日 時：2022 年 2 月 下旬予定
- ブラジル赴任家族のための オンラインセミナー
日 時：2022 年 3 月 25 日 (土)

法人・個人・学生

新規会員募集中

会 員 数 法人会員 109 社 個人会員 約 445 名 (2022 年 12 月現在)

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解、友好関係の促進に寄与する」
にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

会 員 特 典

- 協会会報「ブラジル特報」の無料配布。
隔月発行、年 6 回配布。
- 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に参加できます。(会員限定イベントへも参加いただけます)
- 会員交流懇親会へ参加いただけます。
- 会員宛にメールでお伝えする、様々なブラジル情報をご覧頂けます。
- ホームページにて、会員限定情報をご覧頂けます。

年 会 費

※入会金は不要です

法人会員	1 口 (2 口以上)	20,000 円	／	個人会員	1 口	10,000 円
				学生会員	1 口	1,000 円

お 申 し 込 み

《 日本ブラジル中央協会公式 HP 》
<https://www.nipo-brasil.org>

エミレーツ航空が、 南米を近くする。

リオデジャネイロ*
サンパウロ

ブエノスアイレス

FLY BETTER

エミレーツ航空は、サンパウロ、リオデジャネイロ*、南米のブエノスアイレスを含む全世界 150 以上の都市に就航。
シームレスな乗り継ぎで、よりスムーズで快適なビジネストラベルをお楽しみください。

ワンランク上の空の旅へ。エミレーツ・ビジネス

*リオデジャネイロへのフライトは、2022 年 11 月 2 日より運行開始。

360° business innovation.



世界の未来を、ブラジルとつくる。

[Business innovation-1]

鉄道と港湾を一体化させ、物流を効率化。

鉄道網と港湾ターミナルの複合一貫サービスを提供するVLI社に出資参画。
たとえばサントス北西のティプラム港で、取扱貨物を次々と拡大。

[Business innovation-2]

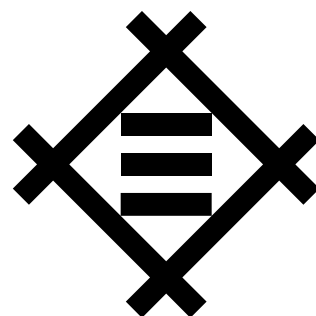
貨車リースで、全土に広がる陸上輸送モデルを確立。

MRCLA社を通じてリース事業を展開。貨車6,000両以上、機関車20両以上で国じゅうを縦横につなぎ、穀物・肥料・鉄鋼製品・燃料などを運搬。物流の安定化に貢献。

[Business innovation-3]

現場のニーズに細やかに応える農薬事業で、農業の発展を。

オウロフィーノ社に出資参画。大規模な農地が多いブラジルで、
気候条件に適した農薬製剤を開発。作物の順調な生育を農薬で支え、
増産や品質向上に貢献。



世界の未来を、世界とつくる。三井物産

MITSUI & CO.